

《無断転載を禁ずる》

2025年度 群馬県立女子大学文学部国文学科
一般選抜（前期）

出題意図

問題一 （一）は現代文の随筆的文章についての問題です。猪瀬浩平『野生のしっそう』を題材としています。筆者の経験や考察について、正確に理解できているかどうか、またそれを簡潔に記述できるかどうかを問うものです。（二）は論理的文章についての問題です。佐々木幹郎「自作詩朗読と日本の詩について」を題材としています。詩の朗読に関する筆者の考えを正確に理解できているかどうか、またそれを簡潔に記述できるかどうかを問うものです。

問題二 鎌倉時代に成立したとされる仏教説話集『沙石集』から、巖触房という学僧と、息子を失って嘆くその妹とのやり取りのくだりを選び、題材としました。古文の基礎的な文法や語彙の知識が身についているかどうか、また、そうした基礎的な知識を運用して、登場人物どうしの関係やそれぞれの状況・心情が読み取れたかを問いました。